



神栖市第一リサイクルプラザ



集められた不燃ごみの山



圧縮したペットボトル。ラベルを剥がせば良質なリサイクル資源になるのだが…



ペットボトルのキャップを手作業で取り外す

ほかにもいろいろなものが混ざって、分別に非常に手間がかかります。市民の皆さんにはぜひきちんと分別し、ペットボトルはキャップとラベルを取り、す

は市民が利用できる研修室や工



神栖市第一リサイクルプラザの原正所長(左)、大地建設(株)の高須信一郎さん(右)

なせ分別が大切なのか
リサイクル工場棟を管理する大地建設(株)の高須さんの案内で、工場見学へ。1日当たり26トンの処理能力がある破碎・選別機械設備はあるものの、手作業が必要な工程もたくさんあります。膨大な量のごみを仕分けするのは気が遠くなるような作業です。「ペットボトルや空き缶は、汚れたまま出されると資源として再生できません。残念ながら破碎や焼却に回されるものが多いのが現状です。」

また、不燃ごみに充電式の製品やリチウムイオン電池が混ざっている」と非常に危険です。破碎機の振動で発火することがあります」と問題点を話す高須さん。ごみの分別は、作業員の安全を守るためにも必要なのだと実感しました。



NPO法人あすなる会の高橋等代表

「リサイクルの目的は、限りある天然資源の消費を抑え、ごみの埋め立て処分を減らすなど、環境への負荷をできる限り軽減することです。混ざればごみ・分ければ資源」を合言葉に分別のご協力をお願いします」と原さんは呼びかけます。

「つくる責任つかう責任」と関わりの深い取り組みです。私たち一人ひとりが分別のルールを守り、きれいな資源を出すよう心がけることが、循環型のまちづくりへの確かな一歩となります。皆さんも、これまではごみだと思っていたものを「どうしたら役立てられるか」考えてみませんか？

リサイクルを支える施設

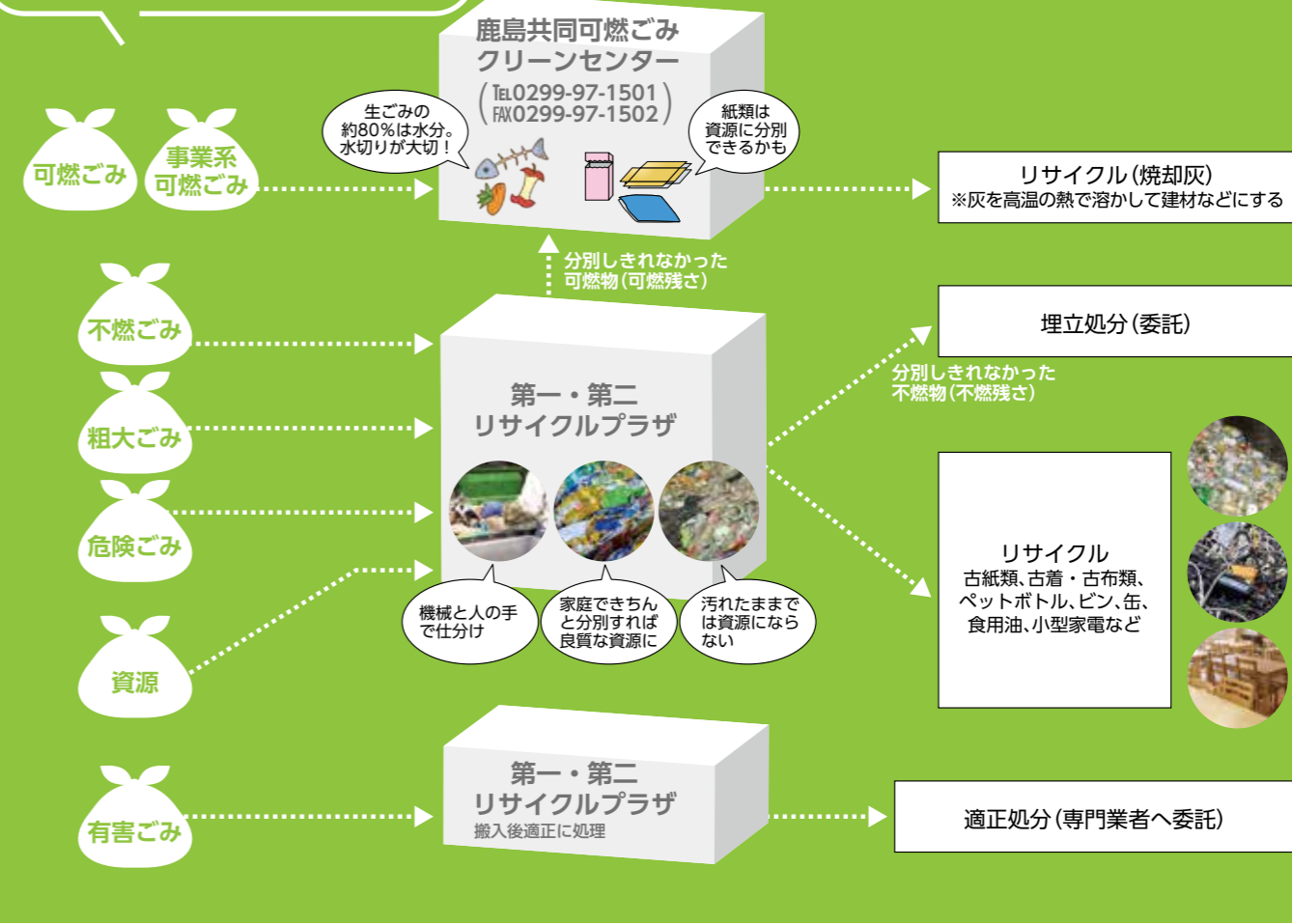
神栖市第一リサイクルプラザ

さあ次は、不燃ごみ・資源・粗大ごみを追いかけてみましょう。市内に2つあるリサイクルプラザのうち、今回は神栖市第一リサイクルプラザを訪ね、その役割について所長の原さんに聞きました。「ここは2つの機能を併せ持つ施設です。リサイクル工場棟では不燃ごみ・資源・粗大ごみを選別処理し、役立つ資源へと生まれ変わらせます。プラザ棟には市民が利用できる研修室や工

房があり、ごみの減量や資源化を身近に学べます」

令和4年度には、不燃ごみ約4087トン、資源約1686トン、粗大ごみ約1223トン、その他のごみ約615トンが運び込まれ、選別処理されています。

私たちのごみと資源のゆくえ



分別のルールが変わる！

新施設の稼働により、ごみの分別などが一部変わるため、市では変更点をまとめたチラシや「ごみの出し方・分け方ガイドブック」を全戸配布しました。今までの不燃ごみの一部が新たに可燃ごみとなり燃やします。また、可燃ごみの大きさ

「24時間稼働しているの、事故などで施設が止まることのないようにするのが一番です。そのために、現場で業務に当たる皆さんと密接に連携していきます」(阿尾さん)、「ごみ処理は、やって当たり前」と思われていますが、作業に従事している回収業者や処理施設の職員は、埃まみれになって毎日休まず働いています。そうした皆さんとともに、スムーズなごみ処理を支えて市民生活に寄与していきます」(飯田さん)

4 汚水を出さない！
ごみピットの底には生ごみから出た汚水がたまりまます。また、ごみ収集車を洗浄した水も汚れています。それらの排水を、プラント内の排ガス冷却水として再利用します。

5 環境について学べる！
施設には見学路が整備されており、窓越しに見るさまざまな設備は迫力満点。「小学校低学年でも楽しみながらごみや環境について学ぶことができます」(清水さん)、「ごみ処理施設が、私たちの生活と密接に結び付いていることをご理解いただけるようお願いしています。市民に開かれた施設ですので、ご予約の上、見学に来てください」(伊藤さん)

も重要です。長さ50センチ、太さまたは厚さ20センチを超え、ごみは投入口に詰まって施設を停止することになりかねません。新しいルールに慣れるまで戸惑うかもしれませんが、ぜひこの機会にご確認ください。

鹿島地方事務組合では、焼却灰を埋め立てず資源化する準備を進めています。これからのような思いで新施設の管理を担っていくのか尋ねました。

神栖ごみ分別アプリ
スマートフォンで収集日や分別方法が分かる！

▲Google Play ▲iOS